

埼玉県退職校長会 会報

題字・石田孝作
第164号
平成30年 8月

平成三十年定期総会

さいたま市・さいたま市文化センター

平成三十年五月三十一日(木)



会長挨拶 (要旨)

会長 石田孝作

全国で13番目の政令指定都市として誕生し、「日本の教育都市」を目指す「さいたま市」において埼玉県退職校長会平成30年度定期総会を開催の運びとなり、衷心より感謝申し上げます。

埼玉県退職校長会は、現在会員数3,740名を擁し、10支部・57班で構成され、全国

連合退職校長会におきましても全国3番目の会員数となりました。

また、本年度、新入会員171名という多数の方々をお迎えすることができました。

ところで、現在、グローバル化や情報化が急速に進展し人工知能(AI)やロボット

の開発は、日々、信じられないスピードで進化を続けており、教育界では、創造的・自立的に生きる人材の育成が強く求められております。

こうした中、新学習指導要領が、昨年3月末に告示されました。

移行措置の取組では、小学校で「教科」となる「英語学

習」は、ほとんど「前倒し」で実施され、2020年度実施と同じ授業時間をすでに3割の学校が確保していると報告されております。

しかしながら、最近の「教員の働き方改革」で指摘されているように「教員の超過勤務の実態」は、看過できない深刻な状況であります。

中教審初等中等教育分科会「学校における働き方改革特別部会」は、「今できることは直ちに行う」としています。

一方、福利厚生に関わる問題については、「高齢者世代重視から全世代対象へ」の転換が叫ばれ、年金・医療・介護など高齢者も「痛み」を伴う改革が不可避とされております。

これらの状況を踏まえ、本会が平成30年度に取り組む活動のうち、三つの要点について申し上げます。

その一は、教育支援・教育要望活動の一層の充実・進展です。

なかでも、本会が40余年推進してまいり、全国的にも高く評価されていると自負しております「現職・退職校長支部別教育推進協議会」(13年前より「彩の国教育の日」協賛事業)の一層の充実を各支部のお骨折りで図ってまいりたいと存じます。



長職のキャリアを生かす再任用、再雇用の場を確保すること。公的年金を削減する年金改革法が成立したことなど、極めて厳しい状況となり、全国組織等と連携した運動を、強力に推進してまいりたいと存じます。

最後に、その三としましては、情報の共有化による会員相互の「絆」の強化です。

昨年4月、ホームページを開設いたしました。特に、「支部・班だより」を充実してまいりましたが、訪問者数は1,447名、閲覧数は、11,054件(本年1月~5月)

と開設当初をはるかに上回る状況です。こうした活動を通して、本会発展の基盤としての役割が果たせることを願っています。

結びに臨み、ご来賓各位に重ねて御礼を申し上げますとともに、総会開催に当たり、多大なご支援ご尽力を賜りました「さいたま市」当局、並びに「さいたま市退職校長会」会員各位に心からの御礼を申し上げます、ご参会の皆様のご健勝でのご活躍を心より祈念し、挨拶いたします。

その二は、会員相互の福利・厚生活動の活性化の着実な推進です。

88歳以上の会員の県会費の免除は6年目を迎え、長寿会員数が220名から約400名と大幅な増加となっていること。校

- ①~⑦ 総会報告
- ⑧ 叙勲者会
- ⑨ 美術展出品者
- ⑩ 総会講演会
- ⑪ 平成29年度の国教育の日
- ⑫ 役員名簿
- ⑬ 全連退総会報告
- ⑭ 一人一言
- ⑮~⑰ 新会員の声
- ⑱ 文芸編集後記